

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月15日現在

機関番号：34420

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520613

研究課題名（和文） 小学校における英語教育担当教員の資質向上プログラムの開発

研究課題名（英文） Developing Programs to Improve the Quality of Elementary School Teachers in Charge of English Language Education

研究代表者

井川 好二（IGAWA KOJI）

四天王寺大学・教育学部・教授

研究者番号：00388589

研究成果の概要（和文）：第一に、スウェーデンにおける実地調査をもとに、英語教育の現状分析を行い、4つの観点から資料を分析し、今後の日本における英語教育について提言を行った。第二に、平成20年度から23年度に実施された更新講習「小学校英語」を担当し、事前の課題意識調査と事後評価の結果から教材開発及び指導方法を検討した。その結果、理論的な学習に加えて、ネイティブスピーカーが参加した実習や実践例の紹介など理論と実践を組み合わせた講習の開発が重要であった。

研究成果の概要（英文）：

The project is twofold. Based on observations and interviews at primary and secondary schools, the first part of the project investigated English language education in Sweden and analyzed the data obtained to present implications to improve English language teaching at elementary schools in Japan. The second part consists of the results of the pre- and post-survey and evaluation by the participants of the teaching credential renewal program the current researcher conducted from 2008 to 2011 as well as suggestions gained for teaching materials and methods. Finally, it is pointed out that in such a program involving native speaking teachers of English is a best way to combine theory and practice.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2009年度 | 1,400,000 | 420,000 | 1,820,000 |
| 2010年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 2011年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,000,000 | 900,000 | 3,900,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：外国語教育・教師教育

1. 研究開始当初の背景

平成20年3月28日に小学校学習指導要領の改訂が告示され、小学校5年生と6年生で週1コマ「外国語活動」を実施することとな

った。また、平成21年度より実施される教員免許更新制の更新講習に先駆け、平成20年度に予備講習が実施された。本学は、この予備講習に参加し、選択講座「小学校英語」

を2日間に渡って開講した。この経験や調査結果から小学校を対象とした、英語指導のための教材の紹介、教材の使用法と指導案の作成、ネイティブスピーカーとのチーム・ティーチングの方法のような講習内容を大学において開発し、小学校の教育現場に提供することが小学校の教育現場から望まれていることが指摘された。

2. 研究の目的

(1) 海外における小学校における英語教育の現状を分析するとともに、教材に関する研究を行うことを第一の目的とした。

(2) 小学校で英語教育を実施するうえでの教材開発、指導計画の作成、具体的な授業の実施、ネイティブスピーカーとの連携ができるようになるような講習内容の構成、教材の作成、修了認定のための方法を明らかにすることを第二の目的とする。

3. 研究の方法

(1) スウェーデンにおける英語教育の現状を資料を基に分析し、今後の小学校段階における英語教育の方向性について検討した。

(2) 平成20年度に実施された予備講習選択講座「小学校英語」および以降の更新講習で実施された選択講座「小学校英語」の事前の課題意識調査の結果をもとに、免許状更新講習の講義内容の構成と教材の作成を行う。第二に、実施後に事後評価の結果から内容と教材の再検討を行う。最終年度の平成23年度まで、実施結果から講習の内容と教材の再検討を適宜実施した。

4. 研究成果

(1) スウェーデンにおいて実地調査を行った。これは、講習内容を深めることを目的として実施したものである。具体的には、スウェーデンの義務教育における英語教育の現況に関する文献をもとにした研究である。幅広い文献によりスウェーデンの9年制基礎学校（7歳から16歳）における英語教育制度を概観するとともに、以下の4つの観点より、スウェーデンの英語教育を分析している。すなわち、(1) スウェーデン語と英語の類似性、(2) スウェーデン文化と英国文化の歴史的共通性及び近年の英米文化の浸透、(3) EU加盟(1995年)による言語政策の変更、(4) EUが推奨する外国語教授法 CLIL である。

(2) 研究 I

四天王寺大学で平成20年度に実施された予備講習の選択講座「小学校英語活動」の受講者54名の事後評価の結果をもとに講習内容のプログラムの開発及び更新講習の事前の課題意識調査及び事後評価用紙の内容を

検討することを目的とした。その結果、各教員の英語活動に関して置かれている状況の違い、英会話の学習経験や学習意欲が事後評価の結果に影響していることが示唆された。また、事前の課題意識調査についても不備が指摘された。そこで、平成21年度更新講習においては、この点を踏まえた事前の課題意識調査を実施し、講習内容の改善を検討することが必要であると思われた。

(3) 研究 II

本研究では、各教員の英語活動に関して置かれている状況の違いと英会話の学習経験や学習意欲を把握する調査用紙を作成し、事前の課題意識調査を実施し、事後評価の結果から改善すべき点を検討することを目的とした。その結果、更新講習に関する項目の事後評価の平均値の方が予備講習に関する項目の事後評価の平均値よりも有意に高いか高い傾向が見られた。筆記試験の内容については更新講習の方が難しかったと評価されていた。また、事前の課題意識調査の調査内容については、更新講習の方が適切であったと評価する傾向が見られた。前年度に比べて講習の内容等について改善されていた。

(4) 研究 III

本研究では平成20年度予備講習と平成21年度更新講習の小学校英語活動の講座を受講した小学校教員を対象に事後評価の自由記述形式の回答をもとに定性分析により質的に分析し、講習の効果について検討することを目的とした。その結果、本講習を受講した結果として、図1に示したように、「できる」と「よい」というカテゴリのようなポジティブな評価と関連する記述が多く見られた。この結果は、本講習の受講から得られた成果が、英語に対する不安感の低下に少なからずつながっていることを示していると思われる。

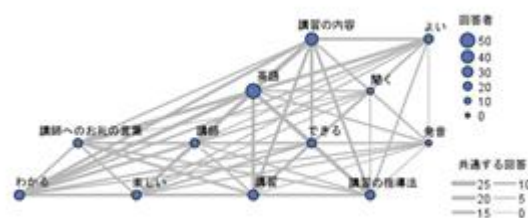


図1 12個のカテゴリ間の関連

(5) 研究 IV

本研究では、平成22年度及び平成23年度更新講習の事前の課題意識調査結果を数量

的に分析し、小学校教員を対象とした英語教育の講習の在り方について平成 21 年度の結果と比較することにより検討することを目的とした。その結果、平成 21 年度の調査結果と同様に、自分自身の英語のコミュニケーション能力や英語の発音に対して不安感を感じている教員が多かった。また、自由記述の分析結果から、全体的に自身の英語能力に加えて、授業に役立つ実践的な内容が求められていた。さらに、現在の小学校の現状を踏まえた批判的な意見が見られた。

(6) 研究 V

本研究では、平成 22 年度及び平成 23 年度更新講習の事後評価による習得の成果について量的に分析し、小学校教員を対象とした英語教育の講習の在り方について検討することを目的とした。その結果、平成 21 年度更新講習と同様に、事後評価の項目の平均値は全体的に高く、特に、講習内容に対して高い評価が得られていた。

(7) 今後の課題

①受講者の世代差の問題である。更新講習は、30 歳代、40 歳代、50 歳代の 3 つの世代の対象者が受講している。小学校における英語の指導方法について大学の教員養成課程において学修した経験がないという点では共通しており、初めて学ぶこととなる。

学級担任である小学校教員が単独で英語活動を指導することにより、児童が興味を抱く教材開発や他の教科と関連させた指導もでき、国際理解教育にもつながる。そのためには、英語指導の理論教育が必要である。学級担任として、今後さらに英語活動に対する能力の向上が求められているのである。しかしながら、各世代において小学校で英語活動の授業を行う上で、必要としている知識・技能が異なっていることが見られた。つまり、英語力の問題だけではなく、世代により児童を理解する能力や教材開発能力、ALT と連携する能力に差があり、英語活動の指導全体に影響するように思われた。また、学校の事情により多忙な立場にある教員も存在している。このような中で、各世代に求められている講習内容を今後も開発することが必要であろう。

②受講者の能力差の問題がある。本研究の事前の課題意識調査でも明らかになったように、英会話の学習経験の差がまず考えられる。英会話の学習経験の豊富さは、英語への抵抗感のなさや ALT との連携にも良い結果をもたらす。学習経験の差で受講内容を細分化すると、各講習の受講者数の減少にもつながり更新講習の採算面の問題も課題となる。

③所属する小学校の地域差の問題がある。地域差に関しては、本研究の事前の課題意識調

査でも明らかになったように、ALT の配置数や研修経験に差があることが示されている。教育委員会によって対応に差があり、現在も解消されていないのが現状である。地域の事情を考慮した内容が求められるであろうが、更新講習は、対象となる教員自身が自らの判断で受講する講習の内容を決定し、受講することが前提とされている。講習内容を具体的に明示することにより、受講者の適切な判断に任せることが重要である。

以上のように、本研究では、3 つの課題が明らかにされた。しかしながら、教員免許更新制とこれに基づく更新講習の制度は、まだ始まったばかりであるといえる。今後、現職教員の研修機関として本学が有効に機能し、地域の教育現場に資するような研究が今後必要であろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

①井川好二、The Impact of English language education on Cambodian elementary school children : Perceptions of EFL teachers in Cambodia、四天王寺大学紀要、査読有、第 49 巻、2010、pp.147-166

<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/toshokan/kiyou/049.html>

②八木成和、井川好二、小学校教員における英語教育の資質向上に関する研究(1) 免許状更新講習の事前の課題意識調査と事後評価の調査結果から一、四天王寺大学紀要、査読有、第 49 巻、2010、pp.167-182

<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/toshokan/kiyou/049.html>

③井川好二、八木成和、Perspectives on English Language Education in Sweden、四天王寺大学紀要人文社会学部・教育学部・経営学部、査読有、2011、第 52 巻、pp.99-121

<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/toshokan/kiyou/052.html>

[学会発表] (計 2 件)

①八木成和、井川好二、小学校教員における英語教育の資質向上に関する研究(1) 平成 21 年度更新講習の事前の課題意識調査と事後評価の調査結果から一、日本教育心理学会第 52 回総会発表論文集、p.603、平成 22 年 8 月 28 日、早稲田大学

②八木成和、井川好二、小学校教員における英語教育の資質向上に関する研究(2) 免許状更新講習事後評価の自由記述形式回答の質的分析一、日本心理学会第 74 回大会発表論文集、p.1166、平成 22 年 9 月 20 日、大

阪大学

〔図書〕(計1件)

①井川好二、八木成和、「小学校における英語教育担当教員の資質向上プログラムの開発」課題番号(21520613)平成21~23年度科学研究費補助金 基盤研究(C)研究成果報告書、2012、63ページ

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井川 好二 (IGAWA KOJI)

四天王寺大学・教育学部・教授

研究者番号：0 0 3 8 8 5 8 9

(2) 研究分担者

八木 成和 (YAGI SHIGEKAZU)

四天王寺大学・教育学部・教授

研究者番号：9 0 2 5 3 2 4 4

(3) 連携研究者

()

研究者番号：